

大竹シルバーだより

第26号

平成21年9月15日

発行所
社大竹市シルバー人材センター

会員数 男 356人
女 210人
計 566人



夏休み子供ピッコサロシで作った竹細工（水鉄砲を飛ばす子ども達）

第二十八回 通常総会を開催

五月二十九日(金)、大竹市総合福祉センター(サントピア大竹)多目的ホールにて、会員五一六名(出席者二三五名、表決委任者二八一名)の出席のもとに、第二十八回通常総会が開催されました。松本滋雄理事長の挨拶のあと、永年在籍表彰(十年)が行われ、三十一名の方が受賞されました。

議長に、白石地区の後藤晃正氏を選出。続いて議事録署名人に、白石地区の山重幸雄氏、玖波地区の大知富士子氏を選出して審議に入り、いずれの議案も原案通り可決承認されました。

第一号議案 平成二〇年度事業報告承認の件
第二号議案 平成二〇年度決算報告承認の件

会計監査報告

第三号議案 平成二十一年度事業計画承認の件
第四号議案 平成二十一年度収支予算承認の件
第五号議案 役員を選任について

審議終了後には、広島県シルバー人材センター連合会参与の藤原光生氏による「シルバー人材センターの活性化・より良い事業運営」と題した講演を行い、シルバー事業のしくみ等について理解を深めました。

今年度も「自主・自立・共働・共助」の理念の下にシルバー人材センター事業の更なる発展と地域社会に密着し、期待され、喜ばれるセンターづくりを目指して、一層の努力を傾注して参ります。

会員の皆様には、更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

選任された新役員

理事 松本 滋雄 伊藤 文雄 江藤 岩雄 小田 源三

後藤 晃正 樋口 弘子 藤森 玲子 本名 隆史

松本 昇 小池 久子 小玉 勇 照永 繁則

村田 英生 森本 忠雄 松本 光弘 (敬称略)

監事 宇野 和彦 中村 一誠 (敬称略)



総会あいさつ(要旨)



理事長

松本 滋雄

第二十八回通
常総会に当たり

ましてご挨拶を申し上げます。

本日は多数の会員皆様のご出席を頂き、来賓として公務多忙のなか市長代理の松崎副市長、議長代理の田中副議長、議会常任委員会から原田総務文教委員長、二階堂生活環境委員長、廿日市公共職業安定所大竹出張所の角所長など、所管に係わる皆様方のご臨席を賜り、盛大に開催できましたことを心からお礼申し上げます。

さて、昨年は米国証券大手の経営破綻から全世界を巻き込んだ景気後退が始まり、我が国においても外需・内需ともに大きく冷え込み、殊に自動車産業の低迷が激しく、雇用情勢も悪化の一途をたどっております。このような状況の下に推移した平成二十年度の事業実績は、会員数五三六名では前年並み、受託額は派遣を併せても二億九千万円で前年より二千万円の減少、就業率は八十九%で5%の減少となりました。

このうち受託額では県下二十二のシルバーセンター中、八番目に当たりますが、会員一人当たりで見ると五十四万円となり、県平均の四十二万円を大きく上回って依然として一位の座を占めております。

事業の面では、根幹となる受託事業

実施のほか、普及啓発を図るシルバーフェアの開催、小学生を対象に夏休みなどに行った子育て支援チップコふれあいサロン、剪定枝葉チップ化による環境保全事業、更には団塊世代定年後の自立促進情報の提供など、多くの事業を行い、所期の成果をあげることができました。

人口三万人のわが街において、数万都市に相当する多彩な事業を行えるのも、ひとえに行政当局のご指導、ご援助はもとより、発注者のご理解、会員を始め役員のご尽力の賜であり重ねてお礼を申し上げます。

新年度は景気浮揚のため政府主導のもとに大型予算が編成され、様々に施策が実施されようとしております。シルバー事業におきましても低迷する受託事業の安定化を図るほか、子育て支援、緑のリサイクルなど補助事業の充実による就業機会の拡大も目指しております。

また、好調なレストラン運営、弁当配食、剪定枝葉チップ化などの独自事業も、より積極的な展開を図り、効率的な運営を行うこととしております。

活力ある社会を維持するためには、生産と消費の好循環が不可欠であります。高い就業意欲を持つ、元気なシルバー世代の誰もが健康と就業に恵まれ、社会の支え手として地域社会の発展に貢献しなければならぬと考えます。

シルバー事業の健全な発展のため今後とも一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

シルバーフェア2009 inおおたけ

二月十四日(土)の朝、関係者の心配をよそに開会を待ちきれない来場者が、既に四〇人程度の行列を作っている。

昨年までは、県連合会のお膳立てによるシルバーフェアが広島・福山など、集客力のある大都市で開かれていたのだが、指定管理者としての責務から施設利用者の増加を図るためとはいえ、「自主・自立・共働・共助」のシルバー理念に則り、単独で、しかも大竹市のコミサロの中で一番利用客の少ない元町のコミサロが会場なのだから無理もない。

結果的には、初日十四日に四五〇人、翌十五日に三五〇人の合計八〇〇人の来場者があり、この界限では秋の大竹祭り以来の人で賑わった。

玄関前の広場では、開会セレモニの後、その日収穫したばかりの野菜や、会員持ちよりの加工品、尾道市シルバーに紹介して頂き、直接買い付けた柑橘類などが並び、焼き鳥コーナーもあった。

無料で振舞われたぜんざいや豚汁のコーナーでは行列が絶えなかつたし、先着一〇〇名への紅白餅配布や、カブト虫の幼虫セットのプレゼントも人気を集めた。

建物内では、一階に県内シルバーからの特産品、神石高原町シルバーの手作り味噌、三次市シルバーの和知の狂言味噌、海田町シルバーのひまわり煎

餅、廿日市市シルバーのシダ籠製品等を展示販売、注目を集め味噌や煎餅は完売となった。

二階には、会員の絵画・書等の力作を展示したほか、昔の大竹が偲ばれる写真やリフォーム作品の展示、会員の手作り作品展示即売コーナーが設けられ、多くの来場者の関心を買っていた。

また、一階では「翁達磨」で有名な高橋邦弘氏の直下弟子でもある庄原市の村上 登氏による臨時の本格手打ち蕎麦店もオープンし、香りの高い蕎麦の味を充分堪能することができた。

さて、このミニシルバーフェアを今年は、十二月五日・六日に予定しており、前回よりさらに内容の充実したフェアとなるよう準備中です。乞うご期待。



開会セレモニのテープカット

会員の声

「シルバー入会と健康」

松原 茂

永年勤めた会社を定年退職し、シルバー人材センターに入会するとともに「西広島タイムス」というコミュニティ紙の配布仕事に従事することとなり、毎週末、暑い日も寒い日も二〇〇部の新聞を抱えて、立戸地区の急な坂道を登った。

ところで、五月二十七日に逝去された日本歌謡界の巨匠、作詞家の石本美由起氏は、大竹市立戸地区の出身だが、氏の代表作のひとつに「柿の木坂の家」という作品がある。ある雑誌に「この作品のモデルは故郷大竹にある生家に程近い坂道の途中に実をたわわにつけた柿の木があり、その情景を思い描きながら作りました」とあった。

もう一つ、氏の代表作として有名な作品「憧れのハワイ航路」があるが、この作品も生家のある立戸地区の坂道を登りきった高台から、眼前に瀬戸内の海が望め、遠くの沖合に貨物船が見える情景をハワイ航路とタブラせて作詞されたと聞いている。

その昔、氏も息を切らして登ったのだらうと思いつながら私も頑張った。そのおかげかどうかは知らないが、

足腰が鍛えられ、今日までどうにか健康体で働かせてもらっている。

「剪定作業について」

卸川 澄雄

センターに入会して七ヶ月が過ぎた頃に「緑化メンテナンス講習（大竹）」の募集があり、庭の剪定を自分で行うなど、剪定仕事に興味もあって早速申し込んだ。

講習では、剪定技術の向上に加えて草刈り機、チェーンソー、脚立などの道具の扱い方、剪定ハサミの研磨等、剪定作業に対する心構えから安全作業まで幅広く指導して頂き、大変勉強に



植木剪定講習風景

なった。

講習終了後に、これを機に剪定作業に従事してみませんかと進められ、剪定班に入れて貰ったが、私のような未熟者で良いのだろうか、自問自答の毎日でしたが、先輩会員の指導を受けながら五ヶ月が過ぎた。

初めのうちは、先輩が半分摘んだ植

シリーズ 就業先訪問

「栄公民館を訪ねて」

栄公民館は、昭和五十六年開設と古く、地元住民には誰しも慣れ親しんでよく利用されている公民館です。

昨年まで、一般公募で採用された館長が配属されておりましたが任期満了と、経費削減と効率化推進によって、今年度より生涯学習課長が兼務することとなり、公民館業務を当センターの派遣就業の形態で勤めさせて頂くことになりました。（小方公民館も同じ）

八月二十七日、取材のため訪問、当日は森本会員の出勤日でした。勤務時間は、日勤が午前八時三〇分から午後五時三〇分まで、夜勤は午後五時三〇分から十時までの二交代制で、会員一名と嘱託職員の女性一名との二名体制の勤務です。あと日曜日は別の二交代制で、休館日の水曜日と祭日が休日と

木を剪定して、仕上がり具合を見て貰い、悪いところを指摘して頂いたりしたが、最近では手直しもなく褒められ、剪定作業にも自信がわき、スムーズに作業をこなせるようになりました。今後とも研鑽を積み、先輩に追いつき追い越せるように頑張りたいと思います。

なります。

一口に公民館業務と言っても公民館によって違い、①公民館利用受付、②使用料の収納、③印鑑証明・住民票の発行（小方公民館はなし）、④図書受付・整理整頓、⑤印刷機他器具の管理、⑥その他色々、多種多様で最初は戸惑うことが多かったようです。

森本会員に最近の状況を尋ねると「派遣されて約五ヶ月になりますが、レジの取扱いは個々の打ち込みとなり、間違ふことが多々あり、一人の際は特に注意を要する」とのこと、また、「不慣れなことから、窓鍵の施錠点検洩れや、解錠がなかなか出来ずに警備保障の方に来てもらった」こともあったそうです。

最近では、施錠点検リストを作りチェック洩れもなくなりました。

就業中は、本庁の窓口と同様に笑顔で応対し、苦情・相談事なども、親切・丁寧をモットーに心掛けています。

村田

互助会旅行記

久保田征四郎

今回は、「宇治の平等院・鳥羽・伊勢神宮」を巡る一泊二日のバス旅行となった。

一班六月二十五日、二十六日、二班七月二日、三日に分かれて、総勢二二〇名が参加した。

梅雨時期でありながら、平生の行いが良いのか一班・二班共に晴天に恵まれる中、私は一班で参加させて貰った。

関西方面での交通渋滞を避けることと、長丁場ということもあって少し早い早朝の六時に大竹を出発。

車中では若いガイドさんの案内を子守歌代わりに、ウトウトしながら聞く。幸い大きな渋滞に出くわさずに午前十



莊嚴と佇む鳳凰堂

一時過ぎに宇治に到着。

観光や修学旅行などで京都を訪れる

観光客が新型インフルエンザの流行によって軒並みキャンセルとなり、京都の観光業界では大きな痛手と連日、テレビや新聞で報道されていたが、意外と賑やかで観光客の数も多いのに驚く、さすがは観光都市京都だとあらためて感心した。

平等院は平安時代後期の一〇五三年に、時の関白藤原頼通により建立された阿弥陀堂で、昭和二十五年、昭和三十三年にかけて大改修され、平成六年十二月には古都京都の文化財の一部として世界文化遺産にも登録されている。

また、外観が尾の長い鳥が翼を広げたような形をしていることや阿弥陀堂中堂の大棟の南北両端に鳳凰が飾られていることから別名鳳凰堂とも呼ばれ、十円硬貨には平等院鳳凰堂が一万円札には屋根に飾られている鳳凰がデザインされていることでも有名である。

とりあえず全員で鳳凰堂をバックに記念撮影。

平成十三年に開館した鳳凰館には、雲中菩薩像など様々な宝物が展示され、平安貴族の一端に触れることが出来た。

今回、伊勢志摩方面を旅行先として選んだ理由の一つに、新名神高速道が開通し、この方面へのアクセスが大変便利になったことが挙げられる。これまでの高速道と違い、特にトンネルが従来型の丸型でなく、かまぼこ型で片

側二車線のうえに側道も走行車線並みの広さが確保されている。この他にも視認性の向上など様々な環境・安全対策が施されている最新の高速道である。

鳥羽市のミキモト真珠島へは、三度目になるが、往時には新婚旅行のメッカとなった観光地らしく、今回の参加者の中に新婚旅行で来たという方が何人かいて、みんなに冷やかされながらも懐かしそうであった。

明治二十六年に世界で初めて真珠の養殖に成功し、以来、栄華を極めた御木本幸吉氏が手に入れた島で、真珠博物館や美術工芸などの展示施設がある。

中でも、海女の潜水実演は郷土色一杯でよかったが、今では本物の海女ではなく、観光用に雇用了従業員の方だそう。

鳥羽湾を望む高台にある宿「旅荘海の蝶」では、温泉で疲れをいやし、当然ながら豪華海の幸に舌鼓を打ちながら酒を酌み交し、至福の時を過ごせた。

翌日は、夫婦岩で有名な二見が浦を経て、伊勢神宮の歴史と文化が一目で分かる神宮御古館を見学、神宮の始まり、祭りの様子、式年遷宮で奉納された調度品、伝統と格式のある美術工芸品などの展示品を見学。神宮の歴史を知るのに非常に参考になった。

年間一六〇万人の参拝客が訪れる伊勢神宮は、内宮（正宮）と外宮で二回の祈願ができるそうだが、時間の都合で外宮は車窓から眺めるだけにして、

いよいよ内宮へと向かった。

神宮（内宮）入口の神聖な世界への架け橋といわれる宇治橋（長さ約一〇二メートル、幅約八・四メートル）は二〇年に一度の架替工事中（本年十一月三日渡始式）で、五十鈴川

のお手洗場で手を清め、深い森につつまれて神々しい参道を進み、正殿（約2000年前に天照大御神鎮座）に無病息災を祈願した。

この神宮は貴く国の最高神とのこと、敷地は約五五〇〇ヘクタールで、大竹市（約七八〇ヘクタール）の約七割の広さがある。今回の式年遷宮は平成二十五年で、すでに隣接する候補地では準備が進められていた。

神宮前のおかげ横町で昼食も早々にみやげ屋巡り、さすがに観光客が多い。賞味期限で問題となった「赤福」も賑わっていた。

帰路の途中、タヌキの置物で有名な信楽陶芸村に寄って縁起物の小振りなタヌキを購入。往復約一二〇キロの長丁場の旅であったが、今回も仲間とふれあい、思い出に残る楽しい旅でした。



愛嬌のある姿が可愛いタヌキ達

永年表彰受賞者 (会員番号順)

- 土手津夜子
- 児玉 才二
- 広中 武志
- 中村 好枝
- 村田 涼子
- 北林 五郎
- 丸山キクヨ
- 竹中 早苗
- 小田 頼人
- 山本テルコ
- 佐藤二司雄
- 佐伯 正己
- 大野 博
- 河村 三男
- 本名 隆史
- 正木 嘉和
- 畠中 政美
- 三井トヨミ
- 新本 英男
- 藤原 積
- 丸山 袈義
- 中田美代子
- 新畑 隆志
- 柳沢 助
- 藤本 秋人
- 森本 静雄
- 北島 道寛
- 久保田征四郎

- 出崎 州子
- 中西 光子
- 稲垣 征昭

(敬称略)



受賞された皆さん▶

互助会コーナー

「釣りクラブ」の活動報告

昨年暮れに「釣りクラブ」が発足し、現在四十一名の方が入会しています。高齢のため、安全を最優先し、近場で楽しい釣りをスローガンに掲げ、早速、第一回目の釣り大会を五月十六日(土)に行いました。

当日は一七名の参加があり、小方港から船舶四隻に分乗して宮島周辺で大いに腕を揮ったが、大漁とは程遠い釣果でした。ただ、大会の景品に「樋口釣具店」より高級船竿2本を提供して頂き、「大物賞」、「最多釣果賞」とし



酒盛り後で大満足の面々

て渡すことができ、初回としてはまずまずの盛り上がりでした。

二回目は、八月一日(土)釣りクラブメンバーの親睦を兼ね、船釣りトパーベキューを企画しました。当日は、事務局を代表して松本局長にも出席して頂き、参加者二十一名が午前中、宮島・可部島付近での船釣りと陸釣りを楽しみ、昼から可部島でバーベキューを楽しみました。特にみんなが堪能したのは、昔有名店でコックをしていた会員が、釣りあげたばかりの魚を、その場で刺身やせごし、焼き魚に全員大満足。

冷たいビールも大いに進みました。今回は、一〇月に大野瀬戸の牡蠣イカダ周辺で、アジ釣りを予定しています。

尚、トイレ付きの船も有りますので、女性の入会は大歓迎です。旬の魚を求めて、皆様と楽しく過ごしたいと思えます。

釣り同好会に入会を希望する方は事務局までお申し込み下さい。

釣り同好会 村岡勝利

「ゴルフ同好会からのお知らせ」

五月二十日(水)恒例の第十六回「OSC」会ゴルフコンペを総勢十三人の参加で、美和ゴルフクラブで開催しました。

天気予報では、六〇%の雨になっていましたが、平素の行いが良いのか、

すがすがしいゴルフ晴れとなり、若葉がとても美しく、皆さんも頑張られました。

優勝 小田源三氏

二位 首藤敦馬氏

三位 宮本英夫氏

次回は、年末頃に開催する予定です。ゴルフ同好会「OSC」会では、ゴルフを愛されている仲間をお待ちしております。

入会希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい。特に女性会員の方大歓迎です。

ゴルフ同好会 本名隆史



シルバー人材センター 会員募集のご案内

◎当センターでは大竹市内にお住まいで、原則60歳以上で健康で働く意欲のある方を募集しています。

*入会説明会 毎月第2木曜日

◎センターでは、様々な仕事を(個人・家庭・企業・公共・各種団体等)からお引き受けしております。

詳細は電話 57-6100まで

お知らせ

二〇一〇年版 会員手帳の頒布案内

二〇一〇年版の会員手帳の予約を受け付けます。
価格は、市販の手帳と比較すると約半額の三三〇円です。

作業服などの購入に朗報

(株)生長産業大竹店さんのご厚意により、当シルバー人材センター会員限定で作業服・手袋など店内の全商品について（売出し品は除く）、会員証を提示すると5%引きにしてくれます。是非ご利用下さい。

新規独自事業

「シルバーフリーマーケット（自由市）」を始めます

実施場所は、元町コミュニティサロンの一階、旧視聴覚室とフロアスペースの一部分を活用してフリーマーケット（シルバー市）を一〇月から始めます。

タンスや押入に眠っている遊休品や手作り品（洋服・タオル・民芸品）等は常設しますが、生もの（自家野菜・

梅干し・漬け物）等は、毎週土・日曜日のみとします。

物が溢れている時代、「もったいない」の精神で、必要な人から必要

な人へ、会員皆さんのご家庭にある品々をお持ち寄り下さい。

販売価格は提供者（会員）が自由にお決め下さい。出された物品が売れば販売価格から場所代等の必要経費（販売価格の5%）を差し引いて配分金としてお支払い致します。

詳細につきましては、事務局にお問い合わせ下さい。（☎5716100）



新鮮野菜が一杯



会員さんの手作り品の数々

緊急雇用対策事業による 新規会員の募集のお知らせ

平成二十一年度の緊急雇用対策事業として、河川雑木雑草等除去及び林道周辺の枯木伐採のお仕事です。市土木課より委託されました。



新規会員で未就業の方が対象になります。ご希望の方、もしくは興味のある方は事務局までお問い合わせ下さい。（☎5716100）

編集後記

「百年に一度」と言われる金融危機がもたらした世界経済の収縮が長引き、青息吐息の状態が続いている。日本ばかりでなく世界がみなそうである。

今年には特に天候不順の夏であった、長雨でぐずつき梅雨明けは過去最遅の八月四日、暦の上では七日の立秋から「残暑お見舞い」になる。ところが盆を過ぎてから「残暑」というより「暑中」と言いたいような暑さが続いている。加えて日本列島は天下分け目の政治決戦により、五十五年間も続いた自民党が下野し、新しく民主主義の連立政権の誕生となった。

経済不況による失業率が過去最悪の六%台に迫る勢い、この時期の新型インフルエンザの流行など、問題は山積しているが一刻の猶予もなく速やかに対応して頂きたい。

さて、当センターも役員改選となり、難しい情勢下の舵取り役として新しく役員の方には頑張ってもらいたいと思います。久し振りに新規独自事業もスタートするようです。

今は先行き不透明な経済状態が続いていますが、いつの時代でも「歴史はくり返す」と言われていますように明るい時代が今すぐそこにやってきました。希望を失わないように頑張ります。ご健勝をお祈りします。広報委員一同